



つながろう

CO・OP アクション情報

2011年08月31日

創刊号

INDEX

みやぎ生協・南光台店営業再開・・・P01
ボランティア情報・・・P02～03
復興関連情報一覧・・・P04～06

◆「再開待っているから」との声に励まされた

～みやぎ生協・六丁の目店は8/20に営業再開

みやぎ生協・六丁の目店の営業再開は7/7の予定が8/20になりました。再開案内のチラシをパート職員たちが一軒ずつ配り歩くと、多くのメンバー（組合員）から「再開待っているから」「震災の時は店頭販売をありがとう」との声をもらいました。「皆、生協で働いていて良かったとあらためて思ったそうです」（若生明子くわこう・あきこ>店長）。

みやぎ生協は、メンバーと共に「支援バザー」や「夏祭り」を開催し、地域に六丁の目店の存在をアピール。

「メンバー活動と事業活動は別々と捉えていました。でも営業再開に向けて一緒に立ち上がる中で、事業活動とメンバー活動が重なったんです」（高橋朋子くたかはし・ともこ>理事）。

メンバー、パート、職員各人が復興への新たな決意を胸に、再開の日を迎えました。

東日本大震災から早くも半年近くがたちますが、被災地は現在も復旧・復興の途上にあります。『つながろう CO・OP アクション情報』では、被災地や全国各地の生協のさまざまな取り組みをご紹介します（隔週水曜日に日本生協連 HP にアップいたします）。

本日、南光台店営業再開

～8月31日朝10時、みやぎ生協・南光台店改修オープン～



明るく、きれいな店内は、多くの人でにぎわっていた。

8月31日、朝10時。改修オープンとなった南光台店に、メンバー（組合員）たちが次々と入店していきます。「元のきれいなお店に戻ってうれしいです」「南光台店が閉店して、当たり前なことのありがたさをあらためて感じました。開店待っていました！」と、メンバーは営業再開に喜びの声を上げていました。

3月11日から173日がたちました。宮城県でも沿岸部などに震災の爪痕がまだまだ深く残っています。その中で、被災地の生協は、一步一步、復興への歩みを進めています。南光台店（仙台市泉区南光台）は、みやぎ生協にとって5店目の改修オープンとなります（7月27日榴岡くつつじがおか>店、8月6日黒松店1階、8月10日新田東店、8月20日六丁の目店）。宅配（共同購入）による離島への配達もスタートしており、8月10日には寒風沢（さぶさわ）島への配達が始まっています。生協の店舗や配送車による商品の供給が、被災地の人々のくらし再建を力強く後押ししています。



寒風沢島への商品の配達。

買い物不便な離島への商品お届け

震災で津波被害を受けた寒風沢島。連絡船の便数は暫定運航で少なくかつ乗り継ぎで、島民自身も港に駐車していた車を流失し、日用品や食料品の買い物が不便になっている。こうした買い物に不便を強いられている離島へ、復旧・復興の一助になればと、離島への商品の配達をみやぎ生協では開始しており、寒風沢島は5つ目となる。

◆ これからのボランティア活動

災害ボランティア活動は、災害発生直後の「緊急支援」から仮設住宅へ移行する時期の「生活支援」、そしてまちの活性化を図りながら、各人のくらしの質を高めていく「復興支援」へと変化します。

約半年経ち、地域差はあるものの、「泥かき」（生活支援）から、被災者の「ふだんのからし」へのサポート（復興支援）に入りつつあります。まちづくり、コミュニティーづくりへの側面支援です。もちろん、地域の商業復興や地元の雇用創出には配慮が必要です（無料の物資提供はやらない等）。ではボランティア活動は何ができるのか。

今回災害支援に行ったある人は、「最大の防災対策は、地域コミュニティの形成とその維持継続である。人と人のつながりが、困難な状況の中でも光をもたらす。そのつながりをつくり、地域コミュニティを広げていくことは、生協の大きな役割。そのために自分でできることをしていきたい」と述べています。まだまだ地域によっては泥かきやがれき撤去、炊き出し、物資提供など必要な活動はありますが、「地域のつながりづくり支援」が次の段階になるのではないのでしょうか。

（日本生協連・福祉事業推進部 尾崎靖宏）

岩手県の引っ越し支援へ全国から生協職員が集結



2カ月半で23生協・組織、延べ537名の生協職員が参加。



手際よくトラックへ。



参加者は活動の中で被災地の現在を体感。

岩手県災害ボランティアセンターからの要請を受け、日本生協連と岩手県生協連では、仮設住宅への引っ越しがピークになる5月31日から2カ月半にわたって、201軒の引っ越し支援活動を行ないました。

遠野市に生協の支援活動の拠点が置かれ、常時10人前後が待機。岩手県災害ボランティアセンターの要請に応じ2人一組で被災地へ。大型家電や家具の運搬もありましたが、支援する生協職員たちは大粒の汗をかきながら奮闘しました。幹線道路沿いのがれきは撤去され、一見、復興が進んでいるように見えます。しかし、引っ越しのために裏道へ回れば、混乱状態の地域が数多く残されています。これからも多くの支援が求められています。

コープふくしま・放射性物質除染ボランティア



何年間にもわたり住み続ける人の健康を守るのが除染の目的。

福島県内の各行政では放射性物質の除染活動が始まっており、コープふくしまは、この活動へのボランティア参加を呼びかけています。道路の表土を2cmほどシャベルで削り、その土をビニール袋に入れて運び出すと、放射線量は10分の1程度になります。除去した土の廃棄場所は難しい問題で、市の対応だけでは限界があり、放射性物質による汚染への全体的な対応を国が主導的に行なっていく必要があります。

コープふくしまでは、放射能勉強会の開催、簡易携帯型線量計の販売やガラスバッジ（個人被ばく線量計）による測定サービス提供など、放射能に対する正しい認識を広めることに努めてきました。

「除染は地道な作業ですが、やればやっただけの成果は出ます。福島を自ら知る機会にもなりますので、多くの方がボランティアとして参加し、長期的な取り組みに協力いただけるとうれしいです」（コープふくしま・野中俊吉専務理事）

◆生協の宅配（共同購入）で地域の方々に貢献したい!!

～生協の宅配（共同購入）を知っていただく取り組みを全国の生協が支援

被災地生協（いわて生協・みやぎ生協・コープふくしま・パルシステム福島）では、生協の宅配（共同購入）利用のご案内活動（仲間づくり）に力を入れています。

それは、生協を利用して、一日でも早く普段の生活を取り戻していただきたい、笑顔になってもらいたいとの思いからです。

被災地には、買い物に不便している人がいまだに大勢います。

生協自体も大きな被害を受けましたが、一日でも早く事業を建て直し、食料や雑貨など生活に不可欠な商品を届けていく。そのことが、地域の人々のくらしを守る生協の役割です。

そこで、生協のことをご案内し、組合員として生協の仲間になっていただく「仲間づくり」活動が、6月から8月にかけて、被災地生協全体で行なわれました。この活動には、187人の全国からの支援者も参加し、同期間で、約3万人が生協の宅配の仲間に加わりました。

さいたまコープ・旧騎西高校での避難所応援隊



炊き出しの食材はJA埼玉、ヨーグルトはユニセフからの提供。



ふれあい喫茶でポップリ袋の作成。



郷土料理「冷や汁」もテーブルへ。

さいたまコープでは、埼玉県内の避難所で暮らす皆さんのために職員やOB、組合員で結成する「避難所応援隊」で定期的な炊き出しなどを行なっています。

7月17日には、加須（かぞ）市の旧騎西（きさい）高校で昼食の炊き出しや子どものための交通安全教室、「ふれあい喫茶」など手作りのイベントを開催して交流を深めました。ポップリ袋を作るイベントでは一つ仕上がるたびに歓声が上がリ、また、わざわざ炊き出しコーナーに戻ってきて、「ごちそうさま。おいしかった」と声をかける方もいました。

旧騎西高校には福島・双葉（ふたば）町の皆さんが1,000人余り暮らしています。

埼玉県内の避難所は閉鎖が始まっています。今までは大規模な場所に集まることで連帯でき、情報も集めやすかったのですが、これからは難しくなります。

福島県内では仮設住宅の建設が進んでいますが、放射線の影響を考慮して居住をためらう人は少なくありません。特に小さな子どもがいる保護者の不安は大きく、仕事のある人だけが福島に戻らざるをえない状況です。こうして離れ離れになってしまった家庭への支援も今後の課題の一つです。

（※日生協『復興支援ポータルサイト』でも紹介中

→<http://shinsai.jccu.coop/contents/005/>）

いわて生協 お弁当ボランティア 5,918食を提供しました

いわて生協では、震災の被害が大きかった陸前高田と大槌（おおつち）町などの沿岸部に毎週火曜日と木曜日に手作りのお弁当を届けました。

取り組みは5月10日から7月28日まで行なわれ、延べ432人のボランティアが参加して、作ったお弁当は計5,918食になりました。

お肉やお魚、野菜や乳製品など栄養バランスを考えたメニューは大好評でした。



少しでも役立てばと、延べ432人が活動に参加。



食材はいわて生協に寄せられたものと募金で購入。

①いわて生協「がんばろう！岩手」マーク入りのどら焼発売！



1個につき売上金の1円が「復興支援基金」となり、被災地支援活動に使われます。8月11日から発売された北海道産小豆100%使用のあん入りのほか、25日には「抹茶」「クリーム」も発売。1個98円・箱入り(8個)980円。

②みやこ映画生協



被害を逃れたいいわて生協の店舗「マリンコープDORA」にはみやこ映画生協の映画館もありますが、災害の後は映画を観に来られない人も多いことから、無料の巡回上映を続けています。協力をネットなどで呼びかけたところ、全国から温かいメッセージと共に支援が集まりました。映画会社からいくつか作品を無償で配給してもらい、いわて生協をはじめ多くの団体から大きな支援もあります。

<復興関連情報一覧>

このコーナーでは、震災復興にかかわる情報を、一覧でお知らせしていきます。

今号は、7～8月に取り組まれた、被災地生協の震災復興に関わる情報を一覧にして掲載いたします。次号からは、9月以降各生協で取り組まれていく内容を、掲載する予定です。生協の復興支援に関する情報をぜひお寄せください。(詳細6ページ参照)

【岩手県】

いわて生協

○店舗・宅配／週1回臨時お買い物バス運行、仮設住宅への移動販売(7/6～7/8、7/13～7/15)、青空コープ開店(7/6～7/8)、宮古市内避難所と幼稚園への弁当支給、わかめ生産者に軍手贈呈(7/22)、個配手数料240円→100円の被災者支援サービス(2011年度末受付分まで)、パラグアイ提供の大豆で製造した豆腐を宅配(共同購入)利用組合員に3丁まで無償提供、避難所に弁当提供(7/25～8/5)、「がんばろう！岩手」マーク入りのどら焼98円(うち1円が復興支援基金)発売<左欄①>、沿岸地域と遠野の仮設入居の宅配利用組合員へバスタオル・ハエ取りリボン・組合員からのメッセージをお届け(8/1～8/5)「みやこうまいもの市」再開(8/27～8/28)

○組合員活動／喪服の募集と提供(～7/末)、傾聴ボランティアによる陸前高田市内避難所での「ふれあいお茶っこ」(7/4)他、ふれあいサロン随時開催、復興支援生協まつり(宮古、釜石、けせん)

○その他／陸前高田・大船渡の仮設住宅19カ所で食器類の無償提供(7/28～8/1)、仮設住宅5カ所で喪服提供(8/4～8/6)、内陸にいる被災者向けに喪服提供(8/7～8/10)、山田北小学校盆踊り大会で綿あめ機提供(8/8)、県内10市町村に「放射能汚染の調査・対策の強化を求める要請」の緊急要請(8/8～8/11)、パラグアイの「友情豆腐」の関係者交流(8/22)、「放射能から身を守る基礎知識」学習会第7回(8/23～8/25)、釜石コープ親子バス旅行&映画会(8/27)、被災地生協との組合員理事交流企画(8/29～8/30)

岩手県生協連

- ・陸前高田地域へのお弁当炊き出し支援(7/5、7/12)
- ・岩手生協連として他団体と共に県議会に「被災者の願いに沿った救済と生活再建について」と「放射能汚染対策を求める請願」を共同請願(7/6)
- ・「東日本大震災津波救援・復興岩手県民会議(仮称)結成総会」(7/9)
- ・映画「いのちの山河～日本の青空Ⅱ」アンコール・チャリティ上映会(7/9)「今こそいのちを守る行政を！ 社会保障制度を考えるシンポジウム」の開催(7/16)
- ・「みやこ映画生協」無料巡回上映会<左欄②>

【宮城県】

みやぎ生協

○店舗・宅配／セットセンター移転(7/4)、富谷支部移転(7/11)、榴岡(つじがおか)店オープン(7/27)、蛇田店にて移動店舗「せいきょう便」の出発式および営業開始(8/5)、黒松店1階オープン(8/6)、新田東店オープン(8/10)、六丁の目店オープン(8/20)、南光台店オープン(8/31)

○組合員活動／仮設住宅でふれあい喫茶スタート(7/14)、ふれあい喫茶開催、おゆずり会、落語ふれあい喫茶(8/27～8/29)

③みやぎ生協「ゆきちからまんじゅう」発売



仙台港のタンクに奇跡的に流失せずに残っていた県産小麦「ゆきちから」の小麦粉を100%使った「ゆきちからまんじゅう」を限定生産で販売。商品化をめざし、3月11日に試作品が届く予定でしたが、震災でいったん計画が中止になっていました。6個入り680円（賞味期限14日間：常温保存）

④みやぎ生協「浪の音本醸造しぼりたて生原酒」発売



名取市閑上（ゆりあげ）にある小さな蔵元「(有)佐々木酒造」で震災の3日前3月8日にしぼった生原酒です。「(有)佐々木酒造」は今回の震災で県内で最も大きな被害を受けた蔵元です。生原酒はがれきに埋まっていたのですが、約1カ月をかけて引き上げられました。みやぎ生協では閑上地域の地酒のともしびを消さないように応援していきます。1,800ml・2,500円、限定420本。

○その他／食のみやぎ復興プロジェクト結成式（7/2）、石巻大橋店で県漁協雄勝（おがつ）東部支所のうに祭り開催（7/18）、みやぎ生協の2011年度方針を聞く会（8/5）、津波被害農地での白菜種まき「白菜プロ」開始（8月中旬）、「ゆきちからまんじゅう」新発売<左欄③>、清酒「浪の音」販売開始<左欄④>、カルビーとJAみどりの共同企画「焼き味噌味ポテトチップス」販売、こーぷ福祉会による福祉サロン開催（8/20、8/27、引き続き毎月第2・第4土曜に開催予定）

宮城県生協連

- ・宮城県協同組合懇話会：東日本大震災からの復興をめざす共同宣言・記者発表（7/2）
- ・みやぎ生協主催・県連共催「震災後に増える悪質商法学習講座」（7/8）
- ・消費者懇、「震災後の消費者行政」について衆議院消費者問題特別委員会との意見交換会（7/25）
- ・宮城県震災復興計画（二次案）へパブリックコメント提出（8/2）
- ・消費者懇主催「漁業における東日本大震災の復旧・復興の課題」学習会（8/24）

【福島県】

コープふくしま

○店舗・宅配／店舗の避難生活支援「5%割引カード」期間延長して継続、「福島の桃を贈ろう！ 福島応援隊」取り組み開始<次頁左欄⑤>、東北6県共同購入の取り組み「がんばろうふくしま 農産品応援ボックス」継続（6月第1週から7月第4週の9週間で12万8,604箱の供給実績）、放射線量測定器、ガラスバッジ、電子ポケット線量計の受注

○組合員活動／放射能学習会の各地開催（14会場17回開催・370人参加、講師は日本生協連に依頼、6/1～6/29）、炊き出しボランティア・コープふくしま・労働組合の共同取り組み「800人のカットフルーツ」（7/7、福島ビッグパレット）、「100人の子どもたちとのかき氷食べ放題」（7/9、あづま運動公園体育館）、「800人でちょっと一息！ 冷やしぜんざい」（7/13、福島ビッグパレット）、大分県の郷土料理「吉野の鶏めし」（7/15）、「夏を乗り切ろう！ 400人でスイカ食べ放題」（7/22、あづま運動公園）<次頁左欄⑥>、「400人で福島の夏野菜を食べよう祭り」（7/29、あづま運動公園体育館）

○その他／除染ボランティア（7月末時点でボランティア登録200人）・第1回除染ボランティア（7/16、7/17）、第2回除染ボランティア（7/23、7/24）

福島県生協連

- ・第2回定例理事会（7/2、復興のための5つのプロジェクト発足について）、県有機農業ネットワークと福島大学協同組合ネットワーク研究所と損害調査の打ち合わせ（7/5）&ヒアリング調査（7/8～）
- ・福島子ども保養プロジェクト打ち合わせ（7/17）
- ・風評被害状況調査・第3回原子力損害に関する関係団体連絡会議（7/15）
- ・中間報告会（7/19、原子力損害賠償法と賠償指針など）
- ・みやぎ九条の会にて福島県の現状と課題を報告（7/25）
- ・県有機農業ネットワークと意見交換（7/29）
- ・「福島の桃を贈ろう！ 福島応援隊」取り組み
- ・損害と賠償問題プロジェクト（8/2）
- ・福島県農林漁業者決起大会（8/12、日比谷野音）
- ・放射能と健康問題プロジェクト（8/18）
- ・研究会「原発になお地域の未来を託せるか」（8/26）

⑤ コープふくしま
「福島の桃を贈ろう！福島応援隊」



「地産地消ふくしまネット」(JA、漁協、森林組合、生協)では、地元生産者や事業者と協力し、「福島の桃を贈ろう！福島応援隊」に取り組みました。7月初めに協賛企業を募ったところ、100社を超える企業からの申し出がありました。これら協賛企業や全国の生協関係者からの注文は7月30日で1,257箱となりました。また、販売代金の一部は東日本大震災被災者への義援金に充てられています。

⑥ 「夏を乗り切ろう！400人でスイカ食べ放題」



7月22日(金)、コープふくしまと福島生協労働組合は、「長引く避難所生活の中で少しでも元気になってほしい」との気持ちから「夏を乗り切ろう！400人でスイカを食べ放題」を開催しました。避難所に入所する南相馬市、大熊町、双葉町などの住民560名を対象とした炊き出し活動で、この日は30個のスイカが提供されました。

【茨城県】
茨城県生協連

- ・ いばらきコープ引っ越しボランティア (6/26～)
- ・ いばらきコープがいわてコープに拡大支援職員派遣 (7/11～8/5、1人)
- ・ 放射線学習会 (7/15、県南・鹿嶋など)
- ・ いばらきコープのラジオ番組で放射線に関する情報提供 (7/22、10分間)
- ・ 宮城県ボランティアバス1台派遣 (7/23、ボランティア40人)
- ・ いばらきコープの職員と理事が岩手県に喪服を贈る取り組み (～7/25)
- ・ 放射線学習会 (8/9、県西地域、8/19 東海村・常陸大宮市、8/26 守谷)
- ・ 宮城県ボランティアバス1台派遣 (8/20、ボランティア42人)

【広域でのかわり】

コープネット事業連合

○店舗・宅配／復興支援ポイント継続、「もったいない冷凍食品セット」(7/4 受付、コープとうきょうeフレンズ限定)、ネット販売限定「東北産野菜セット」(7/11 受付)

○組合員活動／復興支援募金 (6/21～12/20、全会員生協) 組合員理事交流会 (8/27、被災生産者の報告)

○その他／旧騎西高校避難所支援 (6月～継続)、南相馬ボランティアセンター取材 (7/9)、岩手ボランティアセンター取材

パルシステム連合会：

○店舗・宅配／支援企画「“食べる”で支え合う！」

○組合員活動／夏休み親子でクレープ作り (8/1、パルシステム福島)、親子でフラダンス (8/3、パルシステム福島)、親子でトマトケチャップ作り (8/6、パルシステム福島)、ささかみサマーキャンプ (8/19～8/21、パルシステム福島)

○その他／炊き出し支援 (9月末まで継続予定)、被災産地・メーカーへのお見舞い金進呈活動 (7月～)、『のんびる』読者・第2回被災地応援サロン (7/14、ひざかけ制作)、福島・広野町と宮城・石巻市に飲料水お届け (7/22)、新宿区社会福祉協議会訪問し福島から避難されている方の支援について相談 (7/26)、原子力情報室共同代表の伴英幸先生にお話を伺う会 (8/18)、『のんびる』読者・第3回被災地応援サロン (8/22)

◎生協の震災復興支援の取り組み情報募集!!

震災復興支援はこれからも息の長い取り組みとなります。

「つながろうCO・OPアクション情報」では、今後、こうした生協の震災復興支援に関わる様々な取り組み内容を掲載していきます。

ぜひ、皆様の地域での生協の復興支援に関する取り組み情報を、お寄せ下さい。情報提供用専用メールアドレスは以下になります。

→action@coop-book.jp



つながろう CO・OP アクション情報
(隔週水曜日発行・次回9月14日発行予定)

発行 日本生活協同組合連合会 (会員支援本部出版部)
〒150-8913 東京都渋谷区渋谷3-29-8 コーププラザ11F
Tel : 03-5778-8183 / Fax : 03-5778-8051
action@coop-book.jp